

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

令和3年7月26日

大牟田市I社コスクール
担当者通信

No.108

学びを通してつながりを広げる

ESD

一学期のESDの取組を情報共有する中で、各学校で、オリンピック・パラリンピック、コロナ禍における社会生活、豪雨等の自然災害を教材とするなど、現在の社会の諸課題に対応した柔軟なカリキュラムが展開されていました。問題を自分事として捉えるために、子どもたちが見聞きしたり体験したりしている問題を教材化することは、非常に学習効果の高いものだと考えます。

そのような実践を交流したり、理論を学んだりすることのできる研修会が、今年度も夏季休業中に開催されます。参加される先生方は、ご自身の学校で是非情報共有していただきたいと思えます。

- 大牟田市教育研究所 ESD 講座 8月2日(月)
- ユネスコスクール・ESD 実践交流会 8月21日(土)

また、ESDに関する大牟田市内の自主サークルや全国の先生方との自主サークルがオンライン等で開催されており、毎回、理論や実践を意見交流しています。研修を通して、他都府県の先生方とのつながりを広げていくことができます。いずれも自由参加ですので、関心のある方は、みなと小学校の下地までお問い合わせください。

学校と地域がつながる防災・減災教育 白川小学校



白川小学校の4年生は、防災・減災教育に取り組みました。令和2年7月6日に起こった豪雨災害の経験を生かして、4年生では、今後、同じような災害が来ても地域の方が少しでも安全に避難することができるように考え、校区の「防災マップ」づくりの活動を始めました。

地域の方と校区の危険な箇所を探したことで、避難する場所や水に浸かると避難所の学校へ向かう方が危険であるなどの新たな発見と共助の意識を高めることができました。校内に掲示したことで全校児童の防災への意識を高めることができました。



図上訓練の様子

特色ある実践事例の紹介

災害に強いまちづくり 倉永小学校



倉永小学校では、5年生の総合的な学習の時間に地域の防災・減災について考える学習をしています。

災害の現状や原因及び減災について、図書資料で調べたり、防災センターでの疑似体験を通して学んだりしたことを「防災ブック」にまとめ、各学級に配布しました。また、災害に直面したとき、自分の身を守るための行動や日常的な備えについて学び、避難訓練のときに全校児童に発信しました。

今後は、校区の安全マップを作成し、地域の方と共に倉永校区の防災について考えていきます。



避難訓練での全校児童への発信

高齢者施設とオンライン交流 歴木中学校



本校では、各学年とも交流体験活動を取り入れ、様々な課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学びを行っています。しかし、昨年度は新型コロナウイルスの影響で、各学年とも体験学習が困難になりました。そこで、コロナ禍の中でも自分たちにできることはないかと考え、1年生では、例年お世話になっている高齢者施設の利用者や職員の方へ感謝と応援のメッセージアートを作製しました。また、各高齢者施設でも中学生への応援メッセージアートを作製いただき、交換会を実施しました。そして、その様子を高齢者施設とオンラインで結ぶことで、これまでのつながりを保つことができました。



オンライン交流会の様子